フィールド（現場）からの風 ㉑１

宮田守男

建物の外観と施設内容の工夫で地域に活力が生まれた現場を体験してみませんか

11月初旬、大北地域で市町村に勤務したメンバーと旅をする。訪ねる富山市は、経済協力開発機構の「コンパクトシティ政策報告書」で世界の先進5都市として取り上げられたり、ロックフェラー財団「100のレジリエント・シティ」に選ばれたりと、海外からも評価の高い都市。展開するコンパクトシティ政策の狙いの最終的な視野にあるのは雇用。社員が家族と安心して住んで働ける地域で、企業経営者が「ここで事業展開をしたい」といえる都市づくりだ。公共コスト圧縮や環境配慮、あるいは高齢者に優しい街づくりではなく「まちづくり」をベースでの展開が注目されている。

交通は、本来民業との発想に、思い切っての交通機関に公費を投入。素敵な路面電車は、街ににぎわいを感じさせてくれる。地域の方に聞くと、沿線では人口が増加しているとほほ笑む。

訪問した「TOYAMAキラリ」、市立図書館、市立ガラス美術館・富山第一銀行本店などが入居する複合施設。昨年8月にオープンした、新国立競技場の設計で注目されている隈研吾さんが設計に参加した施設。富山大和が近隣の再開発ビルに移転してしまう跡地開発事業の建築物件だが、再開発準備組合の困難さは大変なものだったと聞く。建物に次々に到着する大型観光バス。大勢のお客様が館内のガラス美術館に吸い込まれていく。来場者の為の一般駐車場は造らず、議会答弁では、図書館に車で行くものだと考える文化をお持ちの方は、県立図書館へ行ってください、との理念が都心での文化拠点を作り上げた。富山市は図書館の分館を24か所持っているからこその文化基盤の強さを感じてしまう。

担当者に、図書館利用者から騒音の苦情はないのか尋ねると、これまで全くないとの返事。ゆったりした木材をふんだんに使った館内の雰囲気が居心地良い空間をつくっているのだと設計者の意図に感心してしまう。ネットでの情報では、1年間に70万人の来館者。移転した大和は、北海道物産展開催中でにぎわう。ヨーロッパの街のような、広場の「グランドプラザ」や多くの民営立体駐車場も多く、街のにぎわいを目指す「まちづくり」は、公共の思い切った施策展開がいきる。

とかく、民間ができる事は、民間にとの議論は多い。しかし、公共が理念を持って官民協働で展開する大切さを実感した一日でもあった。

（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）

図書館の雑誌コーナー、企業露出での展開は富山県内では当たり前のようだ